

都心からの距離と出生率との関係

Relationship between the distance from the city center and the birth rate

増田幹人 (駒澤大学)

Mikito Masuda (Komazawa University)

miguitmm@komazawa-u.ac.jp

出生率の決定要因についての分析は、理論・実証面において数多く存在しているが、地理的側面を考慮に入れた分析は多くはない。特に、都道府県ごとに地域区分を都心、郊外、通勤圏外に分けて、これらに応じた出生率およびその背景要因について詳細に分析した例は確認した限り見当たらない。そこで、本分析では、首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）を対象地域とし、それぞれの都県ごとに、都心として定義した東京都千代田区と各市区町村との距離と出生率との関係について分析を行った。具体的には、第一に、東京都千代田区との距離と合計特殊出生率（以下、**TFR**）との関係およびその背景要因について、散布図、重回帰分析等から明らかにした。第二に、4都県の中でも特徴的だった埼玉県の背景要因について検証を深めた。

結果は以下の通りである。第一に、神奈川県、千葉県、埼玉県、東京都における市区町村について、東京都千代田区（都心）との距離と出産・育児の機会費用の関係から当該市区町村が通勤圏外とそれ以外に区分される神奈川県、千葉県、東京都、および両立環境の整備等との関係から当該市区町村が都心、郊外、通勤圏外に区分される埼玉県に分けられた。神奈川県、千葉県、東京都では、都心から離れるほど出産・育児の機会費用が低まり出生率が高くなるという **Butz and Ward (1979)** の理論を援用した議論に沿った結果となった（ただし神奈川県では影響力が弱い）。他方、埼玉県では通勤圏外だけでなく都心でも出生率が高く、通勤圏外では機会費用が低い一方、都心では機会費用が高いものの、両立環境が整備されている可能性が示唆された。また、郊外においては、両立しにくい環境に加え、夫婦の心理的共有度の制約が強い可能性も考えられた。

第二に、東京都千代田区（都心）との距離が近い自治体の割合について4都県間で比較したところ、埼玉県ではこの割合が高く、埼玉県都心では保育環境の整備が「都市的な」高い質を保ちつつ、東京都心のように保育需要超過に陥っていないという好条件があり、これが高出生に影響を及ぼしている可能性が示唆された。第三に、東京都千代田区（都心）との距離と「0~4歳人口1人当たり保育所数」の関係から検証したところ、「0~4歳人口1人当たり保育所数」が埼玉県都心における出生率を押し上げる効果は見いだせなかった。さらに、東京都千代田区（都心）との距離と「保育所との距離が100メートル以内の世帯数割合」の関係から検証したところ、散布図からは都心と通勤圏外で高いという結果となり、東京都千代田区（都心）との距離と**TFR**の関係の型と近似していたが、重回帰分析を行った結果、「保育所との距離が100メートル以内の世帯数割合」は東京都千代田区（都心）との距離と**TFR**におけるU字型の関係に影響を与える要因ではない可能性が示唆された。